ハッセルとブロンカラーは「最高のクオリティーを実現する最強のコンビネーション」

アガイ商事、ハッセルブラッド・ジャパンの正規販売店に

前号CP+2013特集でも取上げたが、ハッセルブラッドの日本法人・ハッセルブラッド・ジャパンが設立され（東京都渋谷区神宮前）、社長には前アジアパシフィック地区担当セールスマネージャーのWilliam penrice（ウイリアム・ペンライス）氏が就任、１月１日より始動した。その主要業務は「単独で日本市場におけるハッセルブラッド製品の販売とカスタマーサービスを行っていく」として、「日本市場における総代理店シュリロトレーディングによるハッセルブラッド製品の販売およびサービスは、2012年12月31日をもって終了した」と発表した。早速、１月下旬には新たに「ハッセルブラッド・ジャパン修理センター」を開設。さらに初陣を飾ったCP+2013の同社ブースでは、新パートナーとして銀一、テイク、アガイ商事の３社を正規販売店に認定したことを明らかにした。

この３社のなかで意外だったのがアガイ商事だ。というのも同社は、幅広く各種プロ用製品を扱ってはいるものの、やはりブロンカラーの日本総代理店として広く知られており、ライティング機材を得意とする総合商社というイメージが強いからだ。

この点に関して「米国および英国では、ブロンカラーとハッセルブラッドが共同出資したハッセルブロンという会社があって、実績を上げています。日本でもブロンカラーのストロボとハッセルブラッドの中判デジタルのベストコンビネーションで販売して欲しいという要請を受け、正規販売店になりました」と、企画宣伝部の椎名さんは明かす。さらに「当社は今後、販売のみならずレンタルも展開する計画で、またイベント等も積極的に行っていきます」と意欲的だ。

早速、2月21日（前橋）と22日（宇都宮）の両日に行われた「2013年フジカラープロフォトセンターフォトフェア」にハッセルブラッド・ジャパンとアガイ商事の両社共同でブースを出展、中判デジタルの新鋭機「H5D」とブロンカラーのフラッグシップモデルとなるジェネレーター「スコロ」とのベストコンビネーションをアピールした。

こうしたプロラボのフェアにプロ機材関連会社が出展することは、取り立てて話題になるようなことではないが、ハッセルがこのようなラボのイベントに参加するのは、実に珍しいことで、また、アガイ商事にとっては初めてのこと……。それだけに写真館市場への販路拡大に意欲的で、営業部・千葉課長代理も「今後は写真館市場へ向け積極的にアピールしていきたい」と熱く語る。

解像度6,000万画素のH5D-60

マルチショットに要求される高精度な「光」

さて、アガイ商事が新たに取扱う製品はハッセルブラッドの中判デジタルの新鋭機「H5D」シリーズと、高精細ディスクトップサイズスキャナーの「Flextight X」シリーズになる。とりわけ注目されるのが「H5D」で、同機には4000万画素の40、5000万画素の50、6000万画素の60、さらに5000万画素のマルチショット機H5D-50MSと、同じく２億画素の画像を生成するマルチショットのH5D-200MSと合わせて５機種がラインナップされている。

しかも、「2013年から価格が大幅に値下改訂され、ハイエンドモデルでも170万円から400万円代となりお客様にご検討して頂きやすい価格になりました」と前出の千葉課長代理。こうした思い切った価格改定にもハッセルブラッド・ジャパンの市場拡充へ向けた並々ならぬ意気込みが現れている。

H5Dは、H4DのRAWのみの書出しから新たにJPEGにも対応。また、テザー撮影の際にパソコンだけでなくカメラの液晶ディスプレイ側でもプレビューができるようになり、コントロールも可能に。またソフトウェアはH5DシリーズのPhocusとAdobeのLightroom4の両方を搭載し、Lightroom4によるテザー撮影もできるようになっており、JPEGの書出しと合わせて一段と使い易いシステムへとステップアップしている。さらにより進化した独自技術の新True Focus Ⅱが採用され、フォーカス精度も一段と向上、即時フォーカスチェックも可能になっている。

特筆すべきは、２億画素の画像を生成するマルチショットのH5D-200MSだ。一体型でのマルチショットモデルは現在、世界でもわずか２社しか生産しておらず、このためこの分野ではハッセルブラッドが圧倒的な強さを誇っている。とくにハイエンドモデルのH5D-200MSは１ショット、４ショット、６ショットと３つのモードで撮影が可能で、このため光のバラツキが許されない高精度なライティング機材が要求される。それにはブロンカラーのジェネレーターのフラッグシップ機「スコロ」、あるいは今年５月に発売が予定されているバッテリーストロボで驚異的な閃光時間を誇る「move1200L」などは、いずれも安定して色温度を保つことが可能で、H5Dシリーズの要求に十二分に応える「ベストコンビネーション」だと強調する。

さらには、Vタイプ用のデジタルカメラバック「CFV」も128万円と安価になり、日本市場に眠る膨大なVの資産の掘り起こしにも「力を入れていきたい」と意気軒昂だ。

ブロンとハッセルのユーザーは一緒

最後にアガイ商事・石木社長にその気概を語ってもらった。

石木社長　ハッセルブラッドも、大幅な値下への価格改定を行い、さらには販路の整備やイベント等の強化など、これまでには見られなかった施策を積極果敢に打ち出し、日本市場における販売戦略を刷新してきました。まさに本気で、私どももその意気込みに応えていきます。そのなかで、弊社にとってポイントとなるのは、実はブロンとハッセルのユーザーは一緒ということなのです。ブロンを使っている人はハッセルを使っており、このコンビネーションは理想的で、欧米でもそれが普及しています。またそれが、ベストクオリティーを求めるフォトグラファーの最強のコンビネーションだといえます。伝統的なハッセルブラッドのブランドは、この写真の業界では根強い支持がありますし、他のデジタルカメラと比べてもデザインも素晴らしいし、やはりフォトグラファーのモチベーションを掻き立てるものを持っています。ハッセルとブロンで「最高のクオリティーを実現する最強のコンビネーション」を、前向きで積極的な写真館さんへご提案できるよう、魅力的なイベントや企画を発信していきますので、今後にご期待下さい。

（写真左）ハッセル×ブロン池袋ショールームにて左より千葉課長代理、石木社長、椎名企画宣伝部長。（写真右）フジカラープロフォトセンターのフォトフェアにハッセルブラッド・ジャパンとアガイ商事が共同でブースを出展